

結

論

## 最 後 に

私たちは、これからの時代を展望する時、新しい地域のカタチを実現し、歴史に新たなページを加える取り組みに、勇気をもって歩み出す必要があるとの思いから、新市建設計画を策定しました。

「古い時代の理念と制度では、新時代の新しい問題に直面することができないばかりではなく、解決することができない。そういう認識で、この問題には取り組む必要がある。われわれは、新しい世界に生きているのであるが、同時に、そこには幾世紀前の判断と制度が残っている」という言葉があります。そして、この言葉に続いて、「古い起源と伝統を崇拝することも大切だが、新しい現代の問題に対処するためには、新しい理念と制度で対処する必要がある」と述べられています。現在、久留米広域合併協議会が取り組んでいる広域合併についても、同様の認識で取り組む課題です。これまでの各市・町の歴史も大切ですが、現代の合併という課題に対処するためには、新たな理念と、その理念を具体化する施策・事業が必要です。新市建設計画は、この新たな理念と、施策・事業を提示するものです。

久留米広域合併は、久留米広域地域の将来に向けて、その将来を魅力あるものとするために取り組みを進めてきました。新市建設計画の最初に、新市としての合併の意義を明らかにし、そのなかで都市経営の確立が最大の意義であるとし、将来的に、地域資源を活かしながら、地域の未来に投資し、自立し発展する都市づくりを目ざすこととしています。

久留米市出身の詩人丸山豊先生が作詞されました曲に、新市のシンボルとも言える筑後川を題材とした、「筑後川」という合唱組曲があります。その中の1節に

「大きな川は

かがやく活路をさがしだす

自然に育てられた愛が

筑後平野の

百万の生活のなかへ

歓喜の声をあげて走ってゆく

(略)

筑後平野の百万の生活の幸を

祈りながら川は下る」

というフレーズがあります。私たちは、筑後平野に暮らす30万住民の生活の幸を祈り、新市の実現を、歓喜の声をあげて迎えたいと願いながら、新市建設計画を策定しました。1市4町の住民の皆様が、本計画に描きました新市の都市像に共感され、共にその実現へと歩み出されることを期待します。